

所信表明用紙

二〇二一年度中央委員会常任副委員長選挙所信表明用紙

中央常任副委員長候補

法学部 二回生

岡野 仁哉

二〇二一年度中央常任副委員長へ立候補いたしました、法学部二回生の岡野仁哉です。今回立候補させていただいた理由を以下に簡単に述べたいと思います。

私は一回生の早い時期から法学部自治会に入り、先輩方に様々なことを教わりながら活動してきました。そして、一回生の秋からは委員長代行として法学部のための活動をし、二回生になってもそれは変わることなく今に至ります。

法学部自治会に入ったばかりの頃は、先輩方のやっている活動はとても有意義なものであるはずだと考えていました。しかしながら、その考えは委員長代行として活動していくうちに変わっていききました。掲げられた理想とはあまりにもかけ離れた現実を見せられたからです。投票をお願いする選挙、人を半ば強制的に集める学生大会、説得力のない議題を提案して学部からそれはできないと拒絶される五者懇談会。自分は何をやっているのだろうと疑問を持ち、自分たちには何もできないと絶望し、活動意欲を失う。こんなことは恐らくどこの学部にだってあるのではないのでしょうか。特に二〇二〇年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、例年のように活動できなかったことからより一層そのように思った人もいるはずです。私も何度もそう思ったことがあります。

しかし、よくよく考え直してみたときに「想いをカタチに」という学友会の理念そのものはとても素晴らしいものです。立命館大学での理想の学生生活を送るという理想のためにあるもののはずだからです。理念を持ち、「想い」を「カタチ」にするために今まで発展し、そのための機構を持つ学友会という組織を残さないわけにはいかない。もしも将来的に学生が対処すべき問題が起こったときにその人たちに力を与えるために。そして、現在のようなコロナ禍という問題に対処できるよう、学友会を残してくれた諸先輩方の努力に報いるために。

ただ、「想いをカタチに」する、していく側の人たちの「想い」が踏みにじられるようなことがあってはなりません。それは当然組織の役割を全うできなくなるといってもあります。ですがそれよりもそういった人々も学友会員なのだから守られて当然のことは守られなければならないということです。

私はこれまでのように自分がどうしてこのような活動をしているのか分からないというような感情を抱えながらも学友会活動をする人を減らしたい、なくしたいという理由から中央常任副委員長へ立候補することにしました。新型コロナウイルスによって今までの生活や活動を一変させられてしまった二〇二〇年という年の次の年にあたる二〇二一年はこの学友会という組織にとっても重要な一年になるはずで、これまでのようにいかない中で組織は変わっていかなくてはなりません。しかしそれは変わっていきける好機であるとも言えます。そのようなタイミングで常任副委員長へ立候補する意味、役職の責任といったものを理解した上で、誠心誠意粉骨砕身の覚悟で活動していく所存です。

二〇二〇年一月二十四日

立命館大学校友会中央常任委員会

同選挙管理委員会